



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2020年
10月23日
発行

第59回

「日本株見通し」

～米大統領選後の日本株は上昇へ～

初めに

今年の日経平均は新型コロナウイルスの登場に伴ない3月末にかけて急落。その後は逆に急騰と激しい動きを続けてきました。しかし10月に入った辺りから動きが鈍くなり、最近では小幅の動きにとどまっています。今回は今後の日本株の見通しについて考えてみます。まず足元の状況についてですが日本株が小動きにとどまっている理由は2つ考えられます。1つは景気や企業業績の改善度合いを確かめたいという投資家心理、もう1つは米国の大統領選です。

景気や企業業績は改善

3月末に安値を付けて以来、日経平均は景気や企業業績が悪化する中で上昇を続けました。そのため投資家の中には株価水準の高さを警戒する声もあるようです。しかし先日発表された国内の代表的な経済指標である8月の鉱工業生産指数は前月比1.7%上昇、3か月連続の上昇となりました。国内では景気の改善が続いている模様です。また最近発表されたIMFの2020年10月世界経済見通しでは世界全体の2020年の経済成長率が前回6月の-4.9%から-4.4%に上方修正されました。マイナス成長に変わりはありませんがこれも明るい材料です。企業業績については主力の電機や自動車の決算発表がまだなので何とも言えませんが、既に発表を終えたニトリ、セブン&アイ・ホールディングス、ファーストリテイリングなど小売り大手はいずれも好決算でした。こうした経済指標や企業業績の改善を受け、投資家は今後日本株に資金を振り向けると予想しています。

バイデン氏勝利で米政治リスクは払拭

もう1つ投資家がリスクを取る妨げとなっているのが米国の大統領選です。どちらが勝つのか、そもそも結着はつくのかなどで株式に手を出しづらいつ感じている投資家も多いと思います。しかしここにきてようやく勝敗の帰趨が明らかになってきたようです。そう考える理由はトランプ氏不利を示唆する報道が増えている事です。例えば10月21日にCNNは共和党幹部マコネル氏が再選が危うい議員に対してトランプ氏から距離を取るよう指示したと報じています。また10月20日のFNNプライムオンラインは「共和党重鎮が早くも敗北宣言」と題する記事を掲載しています。更に10月20日のニューズウィークは「落選後のトランプは恩赦？逮捕？それとも亡命」と言う記事を掲載しました。こうした報道についてはトランプ氏の苦戦を示唆するものと見ており、やはりバイデン氏有利は揺るがないと思います。この様な見方が広がる事により米政治の不透明感が薄らげば投資家は景気や企業業績の時と同様に資金を日本株にシフトさせることになると見えています。

大統領選後の日本株は上昇

最後に結論ですが景気や企業業績の改善、米政治の不透明感払拭から大統領選後の日本株は年末にかけて上昇すると予想しています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES Co., Ltd.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではありません。あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮ください。